

巻頭言

福島「土の力」に守られて

中島紀一

「汚染水の垂れ流し」報道で福島第一原発事故は、「収束」どころではなく、生々しく継続していることが改めて明らかになった。

安倍首相はオリンピック招致のために「汚染水は完全にブロックされている」と国際的に宣言した。しかし、事実は、破損した原子炉は事故当時のままで、原子炉の熱暴走を防ぐための応急対策で使われている大量の冷却水に、原子炉から大量の放射能が浸出し、いまでも汚染水という形で外部に放出され続けているということであり、ブロックされているのはこの国の首相の頭だというのが悲しい現実である。

そんな福島で、耕された田畑は事故後三度目の収穫の秋を迎えている。

原発事故で福島「土の力」に守られて、汚染され

た田畑で農業を続けて大丈夫かと懸念された。しかし、強制退去を命じられた地域以外の農民は、不安を感じながらも、田畑を耕し、種を播いた。

葉物野菜などが穫れ始めたのはその年の七月頃からだった。心配なので農民たちは専門家の協力を得て自前の測定を開始した。結果は放射能はほとんど検出されなかった。はじめの頃は測定の間違いかとも疑われたが、何度検査をしても測定値は変わらなかった。これは原発事故の不幸中でもたらされた驚くべき慶事だった。

農産物から放射能はほとんど検出されないという傾向はその後も年々強まっている。

昨年の米については生産された米の全袋検査という前代未聞の規模の検査が実施された。検査した米袋は一千万

袋を超えた。そのなかで一〇〇ベクレル／キログラムの基準値を超えたのはわずか七一袋に過ぎなかった。当然それは廃棄された。

土を測定するとそこには確かに放射能は存在している。しかし、そこで栽培された作物には放射能が移行していないのである。調べてみると、理由は土が放射能を強く吸着し、作物が放射能をほとんど吸収できない仕組みが作られていたからだった。

不安の中でも農民が決断し田畑を耕したことが良かったのだ。田畑の表面にごく薄く沈着した放射能（今回の事故では主に放射性セシウム）は、耕すことで土と混和され、土は放射能を強く吸着し、放射能は作物に吸収されにくい状態が作られ、収穫の秋を迎えることができたのだ。

作物は土に守られていた。福島「土の力」は原発事故の悲惨のなかで、土に守られたのだ。私はこの驚くような出来事を「福島」の奇跡と呼んでいる。

原発事故二年目の秋に

「福島」の奇跡」は改めて検証されつつある

中島紀一

三・一一大震災による福島第一原発の爆発事故で福島や北関東の広範な地域は深刻な放射能汚染を被った。田畑も例外なく汚染された。当然、その田畑から生産された農産物についても深刻な汚染が心配された。しかし、事故後の二〇一一年四月以降に、耕されタネを播いて育てられた農産物からは放射能はわずかしが検出されなかった。分析してみれば土は確実に放射能に汚染されているのに、そこから収穫された農産物からは放射能がわずかしが検出されないものである。それは特別な栽培方法、特別な田畑に見られる例外的、特殊なことではなく、一般的で普遍的な現象だった。昨年の夏から秋にかけてこの事実を眼の当たりにして、驚き、感動して、これは「福島の奇跡」だと理解した。

二〇一二年の春、原発事故後二年目の作付けが開始された。「福島の奇跡」は二年目の作付けにも顕れてくれるのかどうか。心配と期待が錯綜する半年だった。収穫の

秋を迎え、結果は、昨年以上に「福島の奇跡」は明確に顕れた。ほんとうによかった。後で述べるように、これは「土の力」とそれを引き出した「農人たちによる農耕の結果」だった。まずはそのことに感謝と敬意を表したい。



体的な測定データを例示しよう。農産物の放射能測定については福島県による測定データが飛び抜けて広範で厳密なので、以下の例示は福島県による測定値である。これらは福島県のホームページに逐次掲載公表されている。

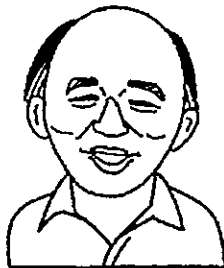
米は、福島県では収穫されたすべての米について全袋検査という気が遠くなるような測定体制で臨んでいる。まだイネ刈りが完了していないが、八月二十五日～十月六日の中間的集計データは次のようになっている。

全測定数は二二七万九千九百九十九検体。検出下限値以下（二五ベクレル/kg以下）二二七万九千四〇〇検体、二六～五〇ベクレルは五二八検体、五一～七五ベクレルは三一検体、七六～一〇〇ベクレルはゼロ検体、一〇一ベクレル以上はゼロ検体。

野菜についても膨大な測定件数にのぼっているが、ここでは直近の九月二十日～二十六日に採取分析された九月二十六日公表分について挙げておきたい。測定数七三検体。検出下限値以下（おおむね四ベクレル/kg以下）は七一検体、五一～一〇〇ベクレルは二検体、一〇一ベクレル以上はゼロ検体。

果物については特産物であるモモを取り上げよう。モモはすでに収穫が完了している。データは七月三日～九月二十七日までのものである。測定数二〇五検体。検出下限値以下（四ベクレル/kg以下）は一五七検体、五一～一〇〇ベクレルは四一検体、一一～三五ベクレルは七検体、三六～一〇〇ベクレルはゼロ検体、一〇一ベクレル以上はゼロ検体。

厚生労働省が食品衛生法に基づいて設定した一般食品の放射性セシウムの安全性基準値は一〇〇ベクレル以下である（ちなみに二〇一一年三月に厚生省があらわてて設定



なかじま けいち

1947年埼玉県生まれ。東京教育大学農学部卒業。経国学院大学教授などを経て、茨城大学農学部教授に。2012年3月に退職し、現在、茨城大学名誉教授。元日本有機農業学会会長。著書は「有機農業政策と農の再生」(コモンズ) などがある。

意見異見

リレーエッセイ ● 66

農家の本づくり応援します!!

私たちは農文協グループの編集制作プロダクションです。安心して、あなたの本づくりをお任せください。

専門スタッフが、執筆へのアドバイスから本の完成まで、責任を持ってお手伝いします。まずは、弊社自費出版係までご連絡ください。

お見積もりを作成いたします。

※全国の書店に配本するサービスは行っておりません。

株式会社
農文協プロダクション
(有限会社)

〒107-0052 東京都港区赤坂 7-5-17
ラクシュアリービル 7517

TEL: 03-3584-0416
FAX: 03-3584-0485

http://www.nbkpro.jp/
jishi@sinseisaku.co.jp

た。極寒のなかでの厳しい作業だった。モモ農家も多くは高齢者だが、お年寄りたちも含めて頑張り通し、すべてのモモの木は除染された。今年の暑い夏は、飛び切り美味しいモモを育てくれた。だから今年のモモの安全とおいしさは果樹農家の頑張り其自然の恵みの結果としてあった。深く感動する出来事だった。

こ うした「福島奇跡」は地元では少しずつ知られるようになり、地元の農産物直売店には地産地消のよさを求める消費者が戻りつつある。農家の食卓にも自給作物の実りの豊かさが戻ってきている。実りの秋を素直に喜びきれなかった昨秋とは大きく違っている。

だが大都市の消費者たちにはまだこのことが伝えられていない。「福島産」「北関東産」という表示を見ただけで拒絶されるという野菜や米の売り場の状態は続いている。「福島奇跡」を作り出してくれた「土の力」と「農人たちの頑張り」に感謝しつつ、原発事故二年目の収穫の秋に、この事実を多くの国民に広く強く伝えていきたい。

した暫定規制値は五〇〇ベクレルだったが、二〇一二年四月に右記に改定された。したがって福島の農産物は全て基準値以下であり、しかもその数値は極めて低い。

こ うした諸事実について私は「福島奇跡」と呼称しているのだが、その一つの理由はチェルノブイリの経験と福島原発事故にかかわるこれらの事実は著しく異なっているからである。チェルノブイリの調査報告によれば、彼の地では農産物の汚染は四年間ほどは高濃度で経過し、低下していくのはおおむね五年目以降からだとされている。それに対して福島では農産物が高濃度で汚染されていたのは事故後二カ月間ほどであり、それ以降は汚染度は劇的に低下していた。

なぜ福島ではこのような「奇跡」とも言うべき事態が作られたのか。それは最初にも書いたように「土の力」とそれを引き出した「農人たちによる農耕の結果」だった。「土の力」とは、土が放射性セシウムを強く吸着固定して、作物への移行を強く阻害しているという意味である。また土は放射性セシウムから発せられるガンマー線を遮蔽してくれている。

「農人たちによる農耕の結果」とは、放射性セシウムがごく薄く表面に沈着していた田畑を農人たちが耕耘し、放射性セシウムを土（それは沈着した放射性セシウムの質量と比べれば膨大な量と評価できる）と丁寧に混和したという事実を主として指している。その結果、地表に沈着した放射性セシウムは土に吸着固定されることになった。以上のことは一年生の作物については普遍的に言えることのようにだが、モモなどの果樹（永年作物）についてはそのままで当てはまらない。果樹は原発事故の放射能を直接浴びており、放射性セシウムは幹にも枝にも沈着したままとなっている。だからそのままで果実には放射能が移行してしまう。事故後一年目の収穫物の測定値からはそうした危惧を感じさせるものがあった。そこで昨冬に果樹作農家は懸命に樹木の除染に取り組んだ。せん定を強め、樹皮を丁寧に剥ぎ、高圧水で徹底的に洗浄し



福島県 2012 年産米 全袋検査結果

<スクリーニング検査>

	測定下限値 未満(<25)	25～50 ヘクレル/kg	51～75 ヘクレル/kg	76～100 ヘクレル/kg	計
検査点数	10,094,223	20,042	1,381	87	10,115,733
割合	99.78 %	0.2 %	0.01 %	0.0009 %	99.99 %

<詳細検査>

	25 未満 ヘクレル/kg	25～50 ヘクレル/kg	51～75 ヘクレル/kg	76～100 ヘクレル/kg	100 ヘクレル /kg 超	計
検査点数	132	40	295	317	71	855
割合	0.0013 %	0.0004 %	0.0029 %	0.0031 %	0.0007 %	0.0085 %

・ 放射性セシウムは、セシウム 134 とセシウム 137 の合計値

地域： 福島県全域

期間(検査日)： 2012 年 08 月 25 日～2013 年 01 月 26 日

検査点数： 10,116,588 点

農産物放射能汚染の点数分布モデル

